

解 答

一

問一 ① 遺伝子 ② 賞味 ③ 創始〔者〕 ④ 穀物

問二 2 問三 ア 問四 エ・オ

問五 最初 人の手が加 最後 という感覚

問六 「食べるということは、地球上に生きる他の生物の体を構成する分子を自分の内に取り込むことである。」

それらの分子は私たちの体内にずっと留まっているわけではなく、体外に流れ出て行く。そしてまた植物に吸収され、海草やプランクトンの一部となって魚に取り込まれ、いずれ私たちの食べ物として戻ってくる。そのように食物を通して私たちは環境と直接つながり、交換しあっているから。

二

問一 ① 指揮〔者〕 ② 通〔わせる〕 ③ つ〔げる〕 ④ ずじょう

問二 いつまでも変わらない楽しい日々を願うあまり、なにかをせずにはいられなかったから。

問三 イ

問四 父は「ずっとサナギのままでいたら、こんなきれいな桜を、見逃してしまうじゃないか」という言葉で、変わらないことばかりにこだわっていたら、成長してはじめて得られる素晴らしい体験に出会うことができないから、前を向いてしっかり育っていきなさいということを伝えようとした。

問五 めがしら 問六 エ・カ

解 説

一、

問二 1は「不」をつけて「不自由」、3は「無」をつけて「無責任」、4は「未」をつけて「未確認」となりますので、答えは2です。

問三 文脈から考えて、「いくら表示を確認し、選り分けて食べようとしても、望まぬものが口に入り込んでいる可能性は□ません。」という文末には、「ゼロにならない」「排除できない」というような意味の言葉がくるはずだと推測できますね。答えとなるア「いなめ」は漢字で書くと「否め」となり、「否めない（否めません）」は「否定できない（否定できません）」の意です。

問四 問題文の問い方が複雑なので注意深く読みましょう。傍線6に含まれる「このこと」という指示語の意味を考えます。これは傍線6の直前部分から、「産地表示の義務があるのはごく一部の食品のみで、大半の食品には義務がないにもかかわらず、産地がわからないことを理由に子どもたちが給食を拒否するのは無理だということ」を指しています。すなわち、「消費者に選択の自由があるから、食の安全は守ろうとすれば守れる」という議論が「成り立つ」ための条件とは、_____と_____をそれぞれ反対の意味にしたエとオとなります。

問六 解答欄の大きさから考えて、答えを一文でまとめようとするには無理があるため、二～三文で簡潔に記述するのがよいでしょう。答えを構成する要素は本文2ページ下段6～19行目にすべて出ていますが、「①（体内に取り込んだ）分子はずっと留まるのではなく、体外に流れ出る。→②植物に吸収され、その後また魚などに取り込まれる。→③いずれは私たちの食べ物として戻ってくる。→④（そのように）食物を通して私たちは環境と直接つながり、交換しあっている。」というようにまとめましょう。

二、

問二 問題文に「『そんなこと』をした理由をジエム自身はどのように説明していますか」とあるのに注目しましょう。これはすなわち「ジエムのせりふの中の表現が答えの要素になる」というヒントです。本文5ページ下段11～13行目、5ページ下段19～6ページ1行目の二カ所を参照し、簡潔にまとめましょう。

問四 問題文に「回想部分からさがし」とありますので、答えのヒントは本文の◆～◆までの間にあります。答えの中心は「それにね、ずっとサナギのままでいたら、こんなきれいな桜を、見逃してしまうじゃないか（本文7ページ16～17行目）」の部分です。出だしの「それに（ね）」が添加の接続詞であることから、この部分が父さんのもう一つのメッセージであることが読み取れますね。「サナギが（蝶になって）桜を見る」とは、「人間的に成長して新たな世界にとびこみ、素晴らしいものに出会ったり素敵な経験をしたりする」ということの比喩です。解答らんが大きいので、無理に一文にまとめようする必要はありません。二～三文に分けても結構ですから、わかりやすく記述することを心がけましょう。